

警城春秋

號 二 十 二 第
 社 行 發 警 城 警
 八 六 二 町 市 電 平
 人 刷 印 行 報 警
 水 刷 刷 木 高
 所 版 刷 印 平
 (行 發 報 土 活 每)
 【 錢 十 四 部 一 價 定 】

一 シ ラ ク モ デ

— 望 展 化 主 民 城 警 —

今や民主化の浪は滔々として日本全土を洗つてゐる。各會社、工場、官廳には労働組合、各町村には農民組合が雨の子の如く繁生した。まことにその外形は壯觀とも偉觀とも形容さるべきである。嘗つては左翼の本といへば禁斷の本の實の如く手に觸れる事さへ許されなかつたものが堂々と店頭姿をあらはし、一般大衆は熱病患者のやうに民主化運動に狂奔してゐる。試みに最近の民主化運動の具體化として、警察の者が來たので君達に好かつたのだ。民間の摘發隊だつたらば……といふことである。毎日紙が十、二日の社説で聯合軍司令部の日本警察制度改革に關する勸告案を引用して「日本の警察制度は公衆への奉仕を建前とせず政權を握つたものが政治上の野心をのびす道具としてゐたことは何人も否定できぬ」と述べてゐる。従來の警察は民衆の保護よりは民衆の取締り、民衆の安寧幸福よりも地方有力者の權益擁護のため、懇談會で指摘されてゐるやうな事實がもしありとすればこの從來の傾向の發

露であつてかういふ點から改善して行かなければ警察の威信は保てない。有力者には警察官は親類縁者の如く一般民衆は警察官は恐ろしい親しみにくい者といふ印象を與へてゐるやうでは民主化どころではない。署長たるものは有力者と料理屋に行つてはならぬなどと厳格なことはいふべきではない。多くの人に接し民情を知るためには飲むもよろしい。しかし公私を混同することは絶対にいけない。星代議員が「アメリカ人はごんごんに友人としての私的交際が親密であつても職務上の事となると判然と君と我とを離れよ」といふ決心を公言してゐる。日本の民主化に大切な點は公人がこの情實に溺れて公私を混同せぬ精神の涵養である。最後に警察の民主化に於て必要なことはその教養人格の向上であつてこれには結局待遇といふことが問題になる。流石に長とかが下僚の中にも空威張ることが威信を保持する所になり心を得てゐるものも從來はあつた。

1、教員の社會的、經濟的地位の向上を圖り以て教權の確立を期す
 2、眞理を探究し教員活動の自主的運営を圖り以て教育の民主化の徹底を期す

教權の確立のためには待遇改善が先決であらうし、昔のやうに地方の政黨屋に地位を左右されぬやうにすることも必要であらう。またこれなくしては教員活動の自主的運営はあり得ない。要するに教育の民主化は教員活動の自主と児童生徒に自主精神を鼓舞することに他ならぬ。此點で組合は讀賣紙の指摘してゐるやうに教員援護會といふもの存在を此際一應考慮すべきであらう。

教育界は從來一番封建思想と形式主義の横行してゐる所として定評があつた。公立學校或は檢定に依る派門のじめ／＼した暗闘、親分のじめ／＼した暗闘、親分、子分の關係、内容はごうでも校内外の形式的整備を喜ぶ傾向、生徒が學科をおぼえる事よりも教科書の進度を重んずる態度、採點本位の考査、文部省や縣の指令となつた金科玉條のごとくひたすら遵奉する非自主的精神、これらは何れも内容的實質よりも形式を重んじてゐる結果であり、お互にいふべき事はいはずに妥協してゆく卑屈な精神のあらはれて民主化はこの教育

士族の商法だ。保有セメントがあるならば宜しく業者に委託製造させてあげて、セメントの作りかたを知らずとも買つて置くとなつて、高き野郎がどんでん返して來るやうになつた。ない／＼といつてゐると一層なくなる、品物があるとなつてとんとんとてくる。金を儲けようとする金が逃げる、金を儲けようとする金が集つてくる。無理に供出させると却つて出來ない心理はこれだよ。

△或人曰く「市内の店頭で定價づきで品物が飾られるやうになつただけでも氣持が明るくなる。高くても買つて置くとなつて、高き野郎がどんでん返して來るやうになつた。ない／＼といつてゐると一層なくなる、品物があるとなつてとんとんとてくる。金を儲けようとする金が逃げる、金を儲けようとする金が集つてくる。無理に供出させると却つて出來ない心理はこれだよ。」

勞組の一部にはゆきすぎを警戒し自己反省の冷靜さをとり戻しつつある傾向も見える。民主化とは空虛なる形式主義の打破と自主的精神の涵養である。而してその根源は各個人の教養人格の向上である。民主化とは要求をつきつけることばかりではない。責任を以て事を遂行することである。

待望の圖書館誕生
 城山の佑賢學舎に故大和豊吉氏が蒐集して置いた圖書約五千餘冊が海外協會の手によって整理され、近々「海外協會圖書館」として公開される。哲學、宗教等の固花、龍之介、露伴、現代文學、明治大正文學、世界文學各全集のやうな文藝物、羽仁モト子全集その他の婦人物、小波全集、小學生全集、児童文庫等の子供向の圖書の迄あり貸出方法は未だ決定してゐないがその公開は期待をかけられてゐる。

▼萬人待望の高級ラジオ受信機は
 日本無線の新製品で!!

日本無線株式會社
 サービスマスターイン濱三郡代理店
 神谷工業原料株式會社
 平市田町五六 電六五六・六六五
 ラジオ全波受信機 特約店募集
 醫療機械ラジオ部品 一般需要に應ず



追貝放設
 追貝放設

磐城春秋

(二)

◇濱通スポーツ聯盟石城支部主催全磐城排球大會は九日平女コートで男子八、女子七チーム参加の下に舉行されたが次の如くHT、磐女OBがそれ、優勝した

男子 部決勝
T2—0 日本水素

女子 部決勝
磐女OB 2—0 平女OB

◇新生「平クラブ」結成記念交歓試合は九日正午より磐中球場で常磐製作、古河炭礦との間に舉行されたが「平クラブ」好調を示し、大勝した

なほ同クラブでは都市對抗を目指して目下練習中である

◇濱通りスポーツ聯盟石城支部主催全磐城陸上競技選手権大會は既報の如く廿三日午前八時より磐女グラウンドで舉行されるが参加資格は男子で年齢その他制限なし、なほOB競技は明治生れのものである

◇十六日福島で舉行される縣下庭球選手権大會に出場する石城支部の選手は左の通りである

岩田 佐宮
木川 藤川
小賀 篠原
志賀 篠原
大井 津池
酒内 奥津
根上 本上

◇濱通スポーツ聯盟石城支部主催全磐城庭球選手権大會は廿三日午前八時から磐女コートで開催される、参加資格制限なし、申込は二十日迄に本社内聯盟宛にすること

文藝

投稿歓迎一可紙上匿名

詩

清野 賢昇

漸く咲き始めた公園の杜鵑花
その傍のなつかげのつたメンチ
こぼれ口角泡を吐き
あふれと議論したのも
もう去年のことになつてしまつた
その懐かしい友は
國家の犠牲といふ美名の下に
はたかく死んで行つた
過ぎし日の職
今日こゝで自分は
ひとりて解禁の書を掃いてゐる

短歌

根本真佐吉

ふるさとを祭りを近み水桶につ
ちの花を門毎に活
藤の花つちの花はさりまてて手
桶に活けぬ春の祭りに
いか程に春の祭りはうれしきか幼
き弟の御輿もむ似
御輿の浴衣まといて若きやや御輿
かつと街中をゆく
重なり太鼓のひびき近づきぬ祭り
の御輿渡御さるらむ

俳句

猪狩 哲朗

浦風を腹いづばいに鯉のぼり
浪音の忘れぬたりし濱のぼり

濱のぼり 中根力男
霧裏の濱のぼり 坂本冬
尾をひける如く濱のぼり 遠藤秋樹
濱のぼり 川崎 古塔里
濱のぼり 渡邊 何鳴

俳句

猪狩 哲朗

洗ひ髪春日の風に吹かせけり
そよ風に香葉ふかれる小丘かな

微風 猪狩 清一

権現塚だより

高木 稻水

近頃は朝は六時頃起きる。菜
足のま、庭に出るまじつとりさ
た土の感觸が何んさといへぬ。鳥
に入つて作物の手入をするか、鎌
を手にして土手の草刈をやる。陽
つてある中に鎌田の後のからどや
が姿をあらはす。七時頃迄に足
洗つて七人家族が賑かに新聞に
の食膳をすまふ。それから新聞に
眼を通し家事上や隣組の雑務をか
たづねて九時前後出社に及ぶ。夕
が六時頃御師館に相なりといふの
が大体の自分の日課だ

権現塚だより

高木 稻水

いふと家族が多いから矢張りな
ければむづかしい。しかし物は生
では食へぬ。配給の薪は目の蒸程
だ。燃料の入手も容易でない。主
食物の不足なことは説明を要しな
い。幸ひ自分はこゝが郷里でもあ
り、親戚はほんごん農家だ。附
近の農家の人も「高木さんか食
うだけ」といつて大抵心よく野
菜類を分けつけてくれるからどや
か飯もせずにあつたが、減價後は
所があつた主婦の辛勞は一日一
さ加はつて来るやうである。権現
塚生活は決して徳富蘆花の美的百
姓生活といふやうな餘裕を持つた
ものではない

権現塚だより

高木 稻水

昭和二十一年六月
昭和一十一年六月
御挨拶迄如斯候 草々

前略私儀今般復員後歸郷左
記に於て診療に従事可致候
に就き倍舊の御支援助り度
願上候 右不取敢以紙上而
御挨拶迄如斯候 草々

人物

増田之君

耳鼻咽喉科の開業醫として、文化
協會醫務部の指導者として市民に
親しみ深かつた故増田之君の告別
式が十五日性源寺で行はれる
増田君は音楽、映画、弓道、釣等
趣味の場が廣く、風采なごにあ
まり傾けせず、性明朗快調、大抵
の人と城廓を設けず交つてゐた
従つて市内には各府各方面に知人
友人が多い。自分は昭和十六年終
城文協會結成の折醫務部の増田君
と始めて知り合になつたので
あるが、文協の醫務的儲物がいっ
も盛況を極めたのは君が忙がしい
身体で東京西走より各方面と連絡
をとり、身銭を切つて骨折つてく
れたお蔭であると信じてゐる。文
協委員會で啞々たる君一流のもの

株式會社

大内昌吉

平土地住宅
有 限 會 社
正木昌次郎
電話二〇二番

開業御挨拶
前略私儀今般復員後歸郷左
記に於て診療に従事可致候
に就き倍舊の御支援助り度
願上候 右不取敢以紙上而
御挨拶迄如斯候 草々

株式會社

大内昌吉

平市鎮田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

上田醫院
平市南町
電話一三九

酒井醫院

平市南町

なつて来る。昨年は君にまつて悲
運の連続であつた。三月十日の戦
災で消火につつまめその結果風邪に
罹りそれが肺炎に高じ一時危篤を
傳へられた程の重症に陥つた。漸
起を命をとりと健康に復し、再
召が来た。終戦で復員となりやれ
〜今度こそはと思つてゐるさ今
度はチアスに見舞はれた。かうし
て十月五日迄に四十四歳を一期と
して郷里といつても縁のうすい熊
本の地に逝去した。琴瑟相和した
静江夫人との間には子寶がめぐま
れてゐなかつた。君にまつての心
残りには恐らくは愛妻静江夫人の
來についてであつたらう。しかし
意を安んぜよ、君の位牌は静江夫
人の胸に擁せられて十九年の縁を
持つわが平市に戻つて來てゐる。
生前君の憐れた徳は必ずや暖かに
隣人愛さなつて夫人に報いられて
くるであらう

酒井醫院

平市南町

大森醫院
平市南町
電話二五八

平市鎮田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

酒井醫院

平市南町

平市鎮田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

平市鎮田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

平會館

平市三丁目

平市鎮田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

平會館

平市三丁目

平市鎮田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿

平會館

平市三丁目

平市鎮田町 金成醫院
外科専門 諸橋鐵彌
各位殿